

## 平成 27 年度岡山 ESD プロジェクト重点取組組織活動報告書

団体名 特定非営利活動法人ハート・オブ・ゴールド担当者名 田代 邦子事業名 国際理解教育を通しての学び

## 1. 活動内容 (日時、場所、参加対象者、人数、内容等)

## ☛学校における国際理解教育の実践

主に小学校での出前授業 (世界の事態や、協力活動で大事な事などを授業の中で話し合う)

先生・児童・生徒たちの取り組みに助言し、その活動を手伝う。

1 学期は、世界を知る→連携校に出前授業に行く。

2 学期は、児童の実践活動に協力して、カンボジアに支援物資を持ち込む。

3 学期は、活動の結果の報告をし、子どもたちの活動が、何処でどのような役に立ったかを報告。

## 連携校での出前授業

岡山県: 小学校 8 校 第 3 藤田小学校 (5/21, 6/20, 6/29, 10/2, 2/3) 平福小学校 (5/1) 政田小学校 (10/27)

曾根小学校 (9/15) 野谷小学校 (1/16) 西大寺小学校 (9/29) 西小学校 (9/30) 中島小学校 (11/26)

中学校 2 校 京山中学校 (10/1) 岡山精秀中学校 (11/21)

高校 1 校 岡山学芸館高校 (11/21)

大学 1 校 岡山大学 (10/26, 2/21)

宮城県: 小学校 2 校 石巻市立渡波小学校 (ネットで交流) 東松島市立野蒜小学校 (支援)

学校以外: おもちゃ王国 (10/4)

倉敷平成ライオンズ (9/8) セトウチライオンズ (2/3) アニモの会 (6/25) 他

スカイプ交流: 今年もスカイプで学校と現地を結んで交流した。

第 3 藤田小学校 6 年生、曾根小学校が 2 回づつスカイプ交流 (12/17, 1/20, 1/25)

## ☛現地へのスタディツアーの受け入れ

\* 東南アジア事務所受入 (HG 活動説明や国際協力について説明、質問に答える。活動現場見学)

・ 大学現地研修ツアー (岡山大学、筑波大学他多数)

\* 日本語教室 &amp; NCCC 受入

・ 岡山大学カンボラ受入 (企画型ボランティア) (12/27-29)

・ 清秀中学校・学芸館高等学校のカンボジアへの研修旅行の受け入れ (12/15、1/19)

・ 学芸館 SGH 調査受入 (10/9, 10/11, 1/6、1/8)

・ 岡山市教育委員会・小/中学校教員カンボジア研修受入 (1/23-1/30)

☛カンボジア人の留学生 (バン・サオピア) が学校や団体などに出かけ、児童たちと交流を持ちながら、学校訪問して出前授業を行った。(小学校・中学校) (6/20、10/2、11/21、1/20)

ライオンズクラブ (9/8、2/3) やイベント (2/19、での講話も実施)

☛カンボジア教育省からの研修→岡山市教育委員会、岡山市教員、岡山の学校での受入調整

## ☛イベント (ESD 関連)

・ チャリティー親子マラソン in おもちゃ王国 (10/4) を開催

・ アンコールワットウォーキング、カンボジア運動会などに日本から子ども達の集めた物資 (鉛筆、ボール、石鹸、歯ブラシ、Tシャツ、ノートなど) を支援した。【添付 1】

・ 運動会は、岡山大学、岡山県教育委員会、岡山市教育委員会、岡山大学学生ボランティア (12 名) がカンボジア、バタンバン州の 4 校の小学校での開催に協力した。

・ 連携学校からの報告書【添付 2】 寄付で作成したマット配布報告書【添付 3】

## 2. ESD の視点を取り入れたところ、ESD の視点で見直したところ

## ☛総合的なものの見方を養う

単に途上国に支援するというだけでなく、資源/経済/環境など地球規模で問題をとらえるように指導

## ☛活動を保護者や生徒会、地域に広げることによって、自分たちのまわりを変えていく（社会性）

## ☛知る→関わる→変わる（知識として知るだけでなく、現地と実際に関わることによって、自分たち自身が変わっていく事を最終目的とした）

## ☛継続する意味の確認 社会的な活動は継続することで、社会を変えることが出来ることを伝えた。

## 3. 取り組みの成果（参加者の変化、感想など）

【添付 4】

## ☛自分たちの活動が相手に伝わったことで、遠いと思っていた人たちが近くに感じられるようになった（顔の見える協力・交流）

## ☛カンボジア人や現地に入った人から直接話を聞くことで、自分たち自身の立ち位置が理解でき、はじめはかわいそうと思ったことが、途上国の人々の生きる力に感動し、頑張っている人々への尊敬が生まれた。そして、自分自身も頑張る事の大事さを確認できた。

## ☛今自分たちなりにできる活動があり、将来社会に役立てる人間になるという決意を感じた。

- ・見えないものを見る目・聞こえない声を聞く耳を持ち

- ・まずは実行する手と足を使い

- ・相手の立場に立って考えられる冷静な頭脳と温かい心を育むことを目指して進む大切さ

## ☛寄り添い→出会い→共感→結びつき→目の前で起きる他者の起き歩み→自らの生に決定的な肯定を与えられる。このようなサイクルが個人の中に息づいた。

## ☛今年もスカイプを通して直接現地と教室を結んで交流を持った。お互いに発表したり、歌声のプレゼントやダンスなど、まさしく顔の見える交流が出来、相手を身近に感じられた。ネットを利用したの新しい交流は、学校では遅れているので、どんどんと広げていきたい。

## ☛岡山市教育委員会とカンボジアと交流している学校教員 6 名で現地を訪問。交流学校での授業やカンボジア教育省、ユネスコ協会、教育大学などを訪問し、岡山の ESD 活動についても紹介した。来年度以降も ESD 教育で、カンボジアの学校と協力することで合意した。

## 4. 今後の課題と展望

## ☛2015 年のユネスコ世界会議をきっかけに、ユネスコスクールに参加する学校が増えている。サービスマーケティングとして、今後も学校の国際理解教育に協力していきたい。

## ☛東日本大震災は今年で 5 年目を迎えている。岡山の子供達とも交流できるように進めたい。現場は大きな支援よりも、忘れないで応援してくれる人々がいることを強く望んでいる。来年度新しく合併してできる宮野森小学校に太陽光街路灯設置の予定。

## 2017 年度の活動予定

## ☛「3.11 子ども animo プロジェクト」学校を助けよう！ 継続支援予定

## ☛国際交流 グローバル人材育成を実践する高校・大学が増加している。支障がない限り学生たちが国際協力の現場を正しく理解し、実践し、進んで未来をつくる力を持つ青少年を育成したい。

## ☛平和構築（カンボジアとの連携強化）

来年度もカンボジアの教育省関係者の岡山での研修を計画中。

## ☛ネット交流 コンピューター機器を使って、スカイプ交流やメールによる交流を広げたい。

5. 活動写真



NCCCの学校とのスカイプ交流



日本の子ども達からのプレゼント



曾根小学校の多田先生 NCCC 訪問時スカイプ交流



第2藤田小の黒石先生「うらじゃ」を指導



支援物資歯ブラシを使って  
歯磨き指導



日本の学校から送った  
虫歯予防のポスター



寄付金でマットを作成



運動会に飛び入り参加の  
有森代表

渡波小学校四年一組の  
ソーラ外灯の製作の様子です。  
ソーラ外灯の製作の様子です。  
この曲は鼓笛隊の演奏曲です。  
また渡波小に来てくださり  
ありがとうございます。

いつもおうえんしてくれてありがと  
うございませう。それにソーラ外  
灯と昔曲の演奏が、鼓笛隊の  
ユニフォームを着てありがたうござ  
いまして。でもソーラ外灯の製作は  
まだ運動会まで、鼓笛隊のユニフ  
ォームは、来年私かきます。これからがんばら  
たいです。



渡波小学校四年一組  
です。  
外  
灯、土まじりの色も、色あざやかなうございませ  
う。私たちが今、製作している形です。あ  
んなに、ありがとうございます。ユニフ  
ォームも、来年私かきます。これから  
がんばらたいです。

渡波小学校四年一組  
です。  
外  
灯、土まじりの色も、色あざやかなうございませ  
う。私たちが今、製作している形です。あ  
んなに、ありがとうございます。ユニフ  
ォームも、来年私かきます。これから  
がんばらたいです。



東松島市立野蒜小学校 全校遠足



カンボジアからの留学生の出前授業



カンボジア人スタッフの出前授業



学芸館清秀中学校・高等学校の研修旅行  
(NCCC での交流)



運動会で一生懸命応援するミタピアップ小学校  
の児童たち